

果樹・茶用殺虫剤

エクスレール® SE

powered by

CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT



シンクイムシ類の被害を抑え 収量をしっかり確保。



- モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、スモモヒメシンクイに対し優れた効果。
オオタバコガに適用拡大。
- 成虫、幼虫の各生育ステージに作用し安定した効果を発揮。
- 天敵に対する高い安全性。リサージェンスの心配がない。

収量確保のために、シンクイムシ類を果実に食入させない エクシレル®SEは、産卵抑制、食入防止の2段階で効果的。

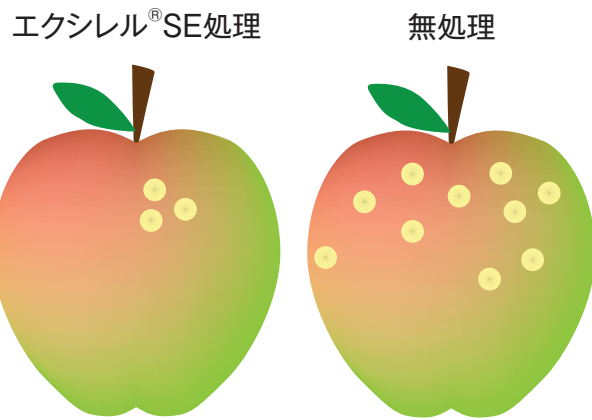
産卵抑制と食入防止効果で被害を抑える(2~3週間)

シンクイムシ類の種類を問わず安定した効果を発揮!

効果イメージ

産卵数抑制

卵数が約70%減少
成虫が吸水、休息のため果実や葉上に留まった際に薬液に触れ、影響がでることによって産卵数が減ります。

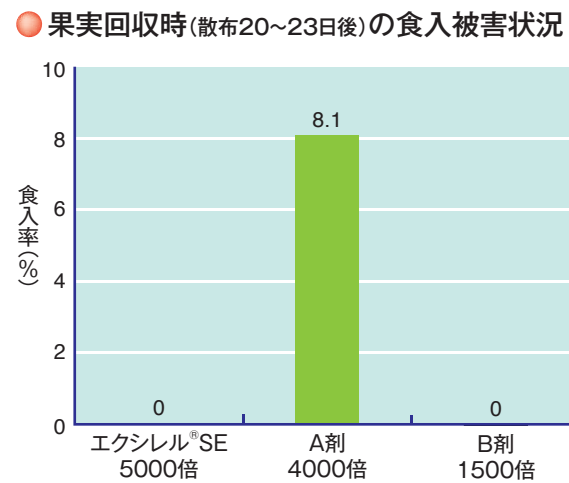
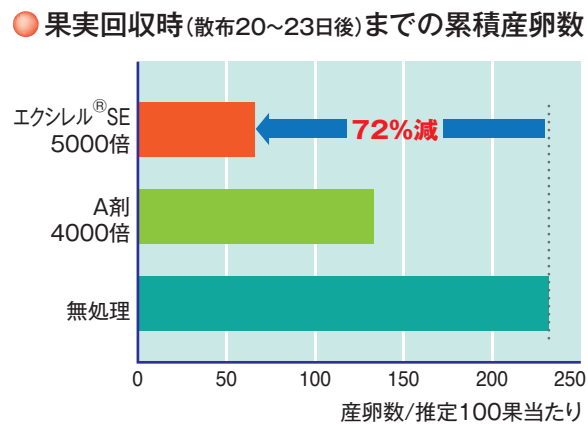


食入防止効果

体内に薬液を取り込むことで、幼虫の筋肉に作用し果実への食入を防ぎます。

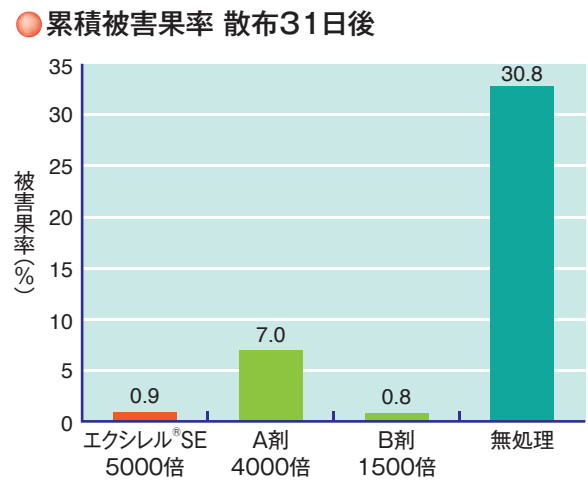
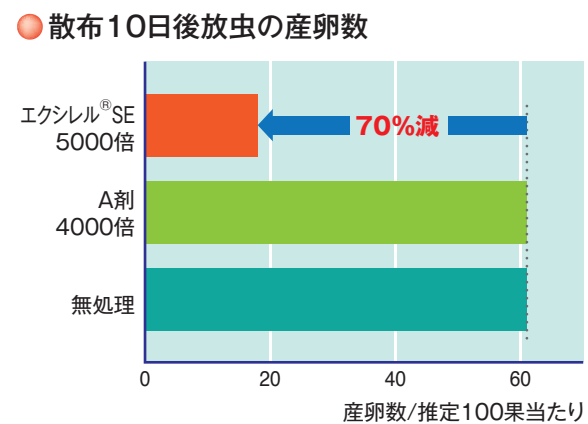


モモシンクイガ



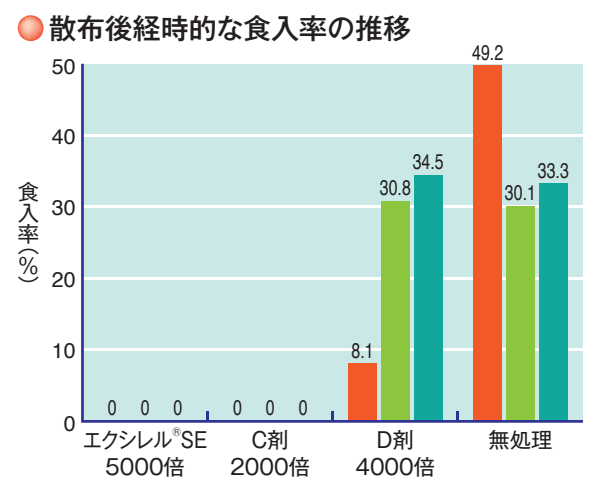
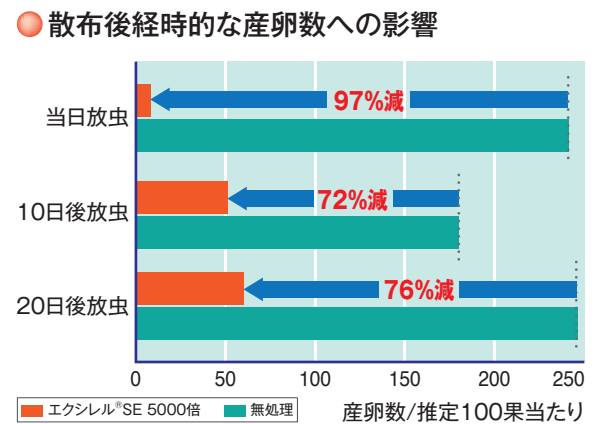
【試験概要】 対象害虫:モモシンクイガ
2015年 総合防除コンサル株式会社
品 種:アルプス乙女(5年生)
区 制:1区1樹3反復
(各樹を2.5m×2.5m×2.5mの網室で覆った)
処 理 日:7月4日
処理方法:果実が十分ぬれるように、2.5ℓ/区程度散布
放 虫 日:散布1,3,5,7日後に既交尾の雌4~6対を網室内に放虫
果実回収時の産卵・食入調査:7月24日~27日
調査方法:100果/樹について、産卵数、食入痕数を実態顕微鏡下で調査
接種した害虫の履歴:2007年5月に福島県果樹研究所から採集し、累代飼育している個体群

ナシヒメシンクイ



【試験概要】 対象害虫:ナシヒメシンクイ
2016年 総合防除コンサル株式会社
品 種:アルプス乙女(6年生)
区 制:1区1樹2反復(各樹を2.25m×2.25m×2.5mの網室で覆った)
処 理 日:8月21日
処理方法:果実が十分ぬれるように、4ℓ/区程度散布
放 虫 日:散布当日,10,20日後に未交尾の雌雄それぞれ20対,17対,14対を網室内に放虫
(無処理はそれぞれ18対,15対,12対放虫)
調査方法:①放虫10~11日後に33果回収し、室温条件下で7~10日置いた後実態顕微鏡下で調査(産卵数)
②9月21日に着果している全果実を回収し、野外条件下で11日置いた後、調査(被害果)
接種した害虫の履歴:2008年12月に長野県南信試験場より分与いただき、累代飼育している個体群(2000年千葉県立原種農場由来)

スモモヒメシンクイ



【試験概要】 対象害虫:スモモヒメシンクイ
2014年 総合防除コンサル株式会社
品 種:アルプス乙女(4年生)
区 制:1区1樹2反復
(各樹を2.5m×2.5m×2.5mの網室で覆った)
処 理 日:8月30日
処理方法:果実が十分ぬれるように、2.5ℓ/区程度散布
放 虫 日:散布当日,10,20日後に未交尾の雌雄20対を網室内に放虫
調査方法:放虫10日後に着果している全果実を回収(最低50果以上)し、25℃室内に7~8日置いた後、実態顕微鏡下で調査(産卵数、食入痕数)
接種した害虫の履歴:2011年9月に福島市内リンゴ園から採集し、累代飼育している個体群

おすすめ使用時期(りんご)

実際の防除については、品種や各地域の害虫発生状況、防除を参考にしてください。
複数のシンクイムシ防除時期が重なるタイミングでの散布がおすすめです。
シンクイムシ類以外にも、ハマキムシ類、ヒメボクトウへの効果が期待できます。

	6月		7月		8月			9月	
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
モモシンクイガ									
ナシヒメシンクイ									
スモモヒメシンクイ									

Legend: Blue bar = 重点防除期間 (Key control period), Yellow circle = エキシレル®SE おすすめ使用時期 (Recommended use period for Eksirel SE)

■適用害虫と使用方法(適用表より一部抜粋)

2018年11月現在

作物名	適用害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農薬の総使用回数
りんご	シンクイムシ類 ハマキムシ類 ヒメボクトウ	2500~5000倍	200~ 700ℓ/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	キンモンホソガ ギンモンハモグリガ ケムシ類 ヨモギエダシャク オオタバコガ	5000倍					
もも ネクタリン	ハマキムシ類 ケムシ類	2500~5000倍					
	モモハモグリガ シンクイムシ類						
なし	ハマキムシ類 シンクイムシ類 ヒメボクトウ	2500~5000倍					
	ケムシ類 ワタアブラムシ	5000倍					
	ハスモンヨトウ	2500~5000倍					
おとう	ハマキムシ類 オウトウショウジョウバエ ケムシ類 チャノキイロアザミウマ コスカシバ	2500倍					
	ハスモンヨトウ	2500~5000倍					
ぶどう	ケムシ類 チャノキイロアザミウマ	5000倍					
	シンクイムシ類 ケムシ類	2500~5000倍					
すもも	シンクイムシ類 ケムシ類	2500~5000倍	収穫14日前まで				

■上記以外の登録作物：かんきつ、かんきつ(苗木)、あんず、茶

△効果・薬害等の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布液調製後はできるだけ速やかに散布してください。
- アルカリ性の農薬や肥料との混用は、有効成分が分解するおそれがあるのでさけてください。これらの薬剤と混用する場合には、メーカーや販売店等に問い合わせるなどして、分解の有無を十分確認してから使用してください。
- やむを得ず、他の薬剤と混用する場合には、事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- ぶどうへは、果粉溶脱及び葉斑を生じるおそれがあるので、袋かけ以降に使用してください。また、無袋栽培(傘掛けを含む)には使用しないでください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 適用作物群に含まれる作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△安全使用上の注意

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。

- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響を与えるおそれがあるので、散布の際はミツバチ及び巣箱にかからないようにしてください。また、散布直後から1日後まではミツバチを散布区域外に移動させるか、巣門を閉じてください。
- マメコバチに対して影響を与えるおそれがあるので、マメコバチの訪花期間中は散布しないでください。
- 水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。



殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理 (IRM)

一般推奨事項：薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製品を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、エクシレル®SEまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。年間を通じて適応されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
 (1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト (<http://www.irac-online.org>)
 (2) <http://www.fmc-japan.com/Agricultural-Solutions/IRAC>

●ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。
 ●空容器は圃場などに放置せず、3回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

製造 エフエムシー・ケミカルズ株式会社
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-1-1 大手町パークビル8階
www.fmc-japan.com
 製品情報はこちらから➡

